様式3

学校番号 74

令和5年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立八女高等学校

自己評価

学校運営計画（4月）

			評価（総合）
学校運営方針	校訓（「質実剛健」）の理念（質素にして飾らず、誠実にして勤勉、いかなる困難にも耐えうるたくましい気力と体力を備えること）の教育理念のもと「知・徳・体」の調和のとれた地域に有能な人材の育成。 目指す生徒像・・・志の実現のために、学び、挑み、和を尊び、社会に貢献できる人物 目指す教師像・・・「生徒が主役」ととらえ、生徒の良い個性をのばし、一人ひとり生徒の良い個性を伸ばし、一人ひとりの進路実現を図る人物		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
本年度教育目標を「質実剛健」の校訓の理念に基づき、「知徳体」の調和のとれた地域に有能な人材の育成を目指すとした。また、目指す生徒像を、「志の実現のために、学び、挑み、和を尊び、社会に貢献できる人物」とした。昨年度は、年度重点目標は概ね達成できた。しかしながら、細かくみると各行事及び取り組みについて旧態依然とした部分が多く、今年度は、現在の教育改革の流れに沿ったスクールミッションやスクールポリシーのもと、大胆に教育課題に取り組み教育活動を行い、更に魅力的な学校づくりをおこなっていく。	目標や理念を全職員で共有し、すべての教育活動で具現化する。	全ての教育活動（各教科・科目、ホームルーム活動や総合的な探究の時間、学校行事等）で具現化を目指す。	
	ICTを活用し、常に授業改善や評価と指導の一体化を図り、教科指導力を向上させる。特に、「個別最適な学び」の実現を図る。	全ての生徒の学力を向上させることに加え、習熟クラス・特進クラス等の成績上位者に対する3年間の育成法を確立する。	
	八女高の役割や実践を地域と共有し、地域から期待される、信頼される学校をつくる。	保護者や地域の本校に対する教育的ニーズを的確に把握し、その期待に応えることにより地域から信頼され、更に期待される学校をつくる。	
	外部資源（外部講師招聘、地域・県・国の取組への積極的参加、関係団体との連携）等を活用して幅広い見方・考え方を育成する。	外部講師の積極的な招聘、地域・県・国の取組への積極的な参加、関係諸団体との連携などを積極的に行うことにより地域と一体となった教育活動を展開する。	
	週34単位制による「確かな学力」を養成する。（余裕ある週34単位制を活用した有効なカリキュラム編成により、効果的な指導を行う。	週34時間制を活用したカリキュラム編成により効果的な指導を行い、課外授業においてレベルの高い学力を保障し、自学の時間の確保させるなど時間管理を意識させる。	
	「師弟同行」を基本とし、「楽ではないけど楽しい学校」をつくる。	教職員の支え合いや助け合いなどにより働きやすい環境をつくる。	
	本校が育成する8つの資質・能力（『主体性』『創造性』『他者理解』『批判的思考力』『構想力』『見通す力』『コミュニケーション力』『事故調勢力』）を広報し、学校の目標や役割を地域と共有する。	それぞれの育成する資質・能力と授業内容、行事等を明確に結びつけることによって授業の質、行事の質の向上を図るとともに広報活動においては、それらの資質・能力を生徒自身が最大限PRできるものとする。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務	授業改善を推進し、グランドデザインで挙げられている「8つの資質・能力」の育成を図る。	新学習指導要領の趣旨を踏まえ、3観点による観点別評価を確実に実施し、授業改善につなげる。				
		単元（学習内容のまとまり）ごとに学習の振り返りを行い、主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、授業改善につなげる。				
		考査問題の質を向上させ、定期考査の学習が学力の向上につながるようにする。				
	生徒の自学力を高め、家庭学習を質・量ともに充実させる。	各教科において、シラバスを活用して学習の目的、内容、学習方法、評価の観点についてのガイダンスを適宜行い、主体的に学習に取り組む態度を育成する。				
		ホームルーム活動の時間を活用し、学習方法や学習計画について考えさせ、学習の自己調整力を身につけさせる。				
企画広報	在校生・中学生・保護者・同窓会・地域社会に対する広報活動を充実させ、魅力的な八女高校の姿を発信していく。	学校開放を奨励し、中学生体験入学の内容をさらに充実させ、中学生・保護者に対し、本校教育活動への理解を図る。				
		中学校での進路説明会において、本校および本校生の魅力をアピールし、本校の広報活動に努める。				
		魅力ある「八女高だより」（年3回発行）や看板・横断幕等を作成し、生徒の意識高揚及び生徒募集につなげる。				
	教職員間や保護者との連携を促進しながら活動を支援し、諸行事の円滑な遂行を図る。	各分掌との打ち合わせを密にし、学校行事等が円滑に運営できるよう支援する。				
		職員・PTA役員・保護者間の連携を密にし、PTA活動が充実するよう支援する。				
生徒指導	状況を的確に捉え、主体的に考え行動することができる自主・自律した生徒を育成する。	在学中に成年年齢に達することを踏まえ日頃のホームルームや集会、講演会等の教育活動を通して、ルールやマナーの大切さを理解させ規範意識を向上させる。				
		生徒会活動や各種委員会活動、学校行事の運営に、生徒一人ひとりが積極的に参加できる環境を整える。				
		希望進路実現に向けて、時間を守らせるとともに、基本的な生活習慣や家庭学習時間を確立させ、タイムマネジメントスキルを育成する。				
	素直さ、直向きさ、思いやり、感謝の心を持ち自他を大切にする生徒の育成	授業や清掃活動等、日々の学校生活に真摯な態度で臨ませることにより、生徒間・生徒教師間の信頼関係を構築させ、謙虚・感謝の心を育成する。				
		「立ち止まって挨拶」「校門一礼」を奨励し、感謝の心を育み、相手に伝わる心のこもった挨拶ができる生徒を育成する。				
		部活動を通して自己指導能力や人間形成を図るため、部活動加入率90%以上を目指す。				
		部活動等による上位大会出場（全国大会…3部、九州大会…5部、県大会…12部）を目指す。				
	安心・安全な環境を整える安全管理	交通マナーの意識を向上させ、交通事故「0」を目指す。特に、バイク通学者、バイク免許取得者、自転車通学者に対して、加害者側の可能性も含めた指導を行う。				
		人権教育やいじめについて、日々のホームルームや集会等を通して相手の立場や気持ちをくみ取り尊重することを学ばせ、自他を大切にする思いやりの心を育成する。				
		部活動や学校行事における事故・ケガの防止や早期対応の為の能力を育成する。				
		不審者情報の速やかな提供等危機管理マニュアルの活用により安全対策を図る。				

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は
	A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

保健	生徒の心身の健康の保持増進	学校保健安全の行事や活動をとおして、心身の健康に関係を持ち、正しい知識を学び、自ら行動できる能力の育成と実践力の向上を図る。							
		生徒の健康状態を把握するとともに、感染症予防や感染拡大防止のための早期対策を図る。							
		担任からの相談や学年会等での事案について、課題や問題があれば、早急に保健課へ連携しての対応を検討する。また、教育相談委員会を定期的に開催し、「気になる生徒」や「配慮を要する生徒」に関する情報を職員間で共有し、対応について協議を行い、その対策については、学校全体で組織的にあたる。							
		スクールカウンセリングや心の健康相談、訪問相談等を計画的に実施し、学校医やSC、SSW等の指導・助言を受けながら、関係職員や関係機関と連携し、生徒や保護者の支援に当たる。							
		健康診断や教育相談等の結果を受け、疾病の早期発見・早期対応に当たり、疾病を予防する。また、必要に応じて保護者及び関係専門機関と連携し、継続的な支援を行う。							
	学校安全及び環境衛生の整美	生徒のけがや病気に対する、適切な処置と対応を行う。							
		学校管理下での災害状況について全職員に提示し、災害防止に役立てる。							
		安全衛生点検や検査を行い、必要に応じ事務室と連携して改善に当たる。							
		学校薬剤師の指導のもと、学校環境衛生検査の実施報告を行い、環境衛生の整備に努める。							
		生徒の美化意識の主体的な美化活動の推進を目指す。							
		「美化充実期間」において、日常の清掃状況を評価し、清掃の徹底を図る。							
	委員会活動の活性化	生徒が活動できる場と環境をつくる。							
		委員会活動をとおして、個々の潜在能力を生かし、主体的に行動できる生徒育成を目指す。							
		生徒会組織の一員としての役割を考え、組織活動の必要性と重要性を体験できるようにサポートする。							
キャリア教育	生徒の社会性・自己肯定感を高め、早期からの進路意識の高揚を図る。	生徒の進路意識を高めるために、「進路講演会」や「進路ガイダンス」をはじめとする進路関係行事を計画的に企画・実施し、生徒を積極的に参加させる。							
		「総合的な探究の時間」はキャリア教育の視点、及び、大学進学・公務員就職での活用の視点を持ち、1年次に「進路探究」、2年次に「地域協創プロジェクト」を取り入れ、主体的に自分の進路について考えさせる内容にする。							
		生徒の進路希望を的確に把握するために、各学期1回の進路希望調査を行う。また、生徒のキャリア意識の形成を図るために、各学年と提携して「ポートフォリオ」、「キャリア・パスポート」を記入させる。							
	課外・長期補習・土曜セミナーの更なる充実を図り、生徒の基礎学力の伸長を図る。	生徒の進路希望実現を図るために、課外授業・長期補習・土曜セミナーを効果的に実施する。							
		公務員試験を受験する生徒の進路希望実現を図るために、2年生2学期期末考査後からの公務員課外や公務員専門学校と連携した公務員専門科目・面接対策を企画・実施する。							
情報	1人1台端末を授業や家庭学習に利活用できるよう、教員のスキルアップを図る。	校内外での活用事例を収集し、それを閲覧する環境や研修を企画する。							
		教員とICT支援員とのパイプ役を担い、授業へのICT活用について相談しやすい環境をつくる。							
	校務支援システムや各種業務のICT化について、業務のスリム化に繋げると共に、誰でも扱えるようにする。	校務支援システムについては、教務・進路・保健等の各担当者が業務に取り組めるようなシステム設定やサポート体制を確立する。							
		Google ClassroomやFormsなどの活用については、各担当者が実務を担えるようなマニュアル作成等のサポート体制を充実させる。							
	スタディサプリ活用の更なる充実を図る。	1人1台端末を使ったスタディサプリの利用を通して、更なる活用を推進する。							
		個別最適化された学びの実現に繋げるため、習熟度に応じた講座の紹介等の工夫を通して、スタディサプリの活用を促進する。							
研修	教員のキャリアとニーズに応じた研修の充実を図る。	「Find！アクティブラーナー」を活用し、職員一人一人のキャリアやニーズに応じて研修ができるような環境を整える。							
		「Find！アクティブラーナー」の視聴による個人研修の成果を授業改善シートに記入し、学校全体で共有する場を11月に実施する職員研修に設け、組織的な授業改善を図る。							
	年間を通じたマネジメントサイクルを取り入れることにより、組織的な授業改善を推進する。	学校独自の授業改善シートを活用することにより、マネジメントサイクルに基づいた授業改善を推進する。							
		5月と10月にスタディサプリを活用して授業アンケートを実施し、それぞれ、取り組み指標及び検証指標の作成、成果と課題分析のための情報収集の支援を行う。							
		6月と10月に授業研究推進期間を設け、研究授業や授業の相互参観を推進し、実践・参観・協議を通して、授業改善を図れるよう支援する。							

第1学年経営	八女高生としての基本的生活習慣を確立させ、人間力の基盤を育成する。	基本的生活習慣を確立させ安易な遅刻・欠席をせず、全教育活動を通して粘り強く努力が出来る、心身ともに逞しい生徒の育成を目指す。（出席皆勤率70%以上を目指す。）							
		日々の生徒の様相観察や教員間の情報共有を土台に共通理解を図り、生徒の特性を見極め全職員で一貫した指導を行っていく。							
		校内外を問わず、八女高生として相応しい服装・頭髪や立ち振る舞い、心のこもった挨拶や場に適した言葉遣いなどができるよう、日々の教育活動の中で、時間や期限、ルール・マナーを順守することの大切さを伝え実践させることで、社会から信頼される人間の育成を目指す。							
		部活動加入を奨励し、集団内での人間関係を構築する力やコミュニケーション力などを養う。							
	進路実現のために意識を向上させ、基礎学力の定着を図る。	学習面でも生活面でも高校生活に適応できるよう、全教育活動を通じてガイダンス機能の充実を図り、将来の在り方・生き方を考える態度や主体的に意思決定・行動選択ができる能力を育む。							
		特に国語・数学・英語の予習・復習を徹底し定着させることで、自ら学ぶ姿勢を養い、家庭学習時間の目標を平日150分、休日300分とする。最終的には平均180分以上を目指す。							
		進研模試の国数英総合成績の全国偏差値54以上（国公立大合格の目安）に100名以上を目指す。また、特進クラスについては、全国偏差値62以上を目標とする。							
		積極的に校内外の活動に取り組ませることで、生徒の強みを引き出し、伸長を図る。また、3年後の学校推薦型・総合型選抜入試を見据えて、一人ひとりの生徒に見合った受験方法を、3年間を通して全職員で模索していく。							
	学校生活を通して自他の良さを気付かせ、生徒の自己肯定感を高める指導を行う。	「楽ではないけど楽しい学校」の実現および、高一クライシスを防ぎ不登校を生まないために、適宜学年行事を企画し、年間を通して生徒相互のリレーションシップの向上を目指す。							
		生徒の変化に早期に気付くことが出来るよう、全職員で日頃から積極的生徒指導に努め、家庭との信頼関係を土台に種々の問題の早期解決に努める。							
		学校行事やボランティア活動などに積極的に参加させるとともに、外部機関と連携し講演や活動などの様々な体験を通して、自他の良さに気付かせ、生徒一人ひとりの強みを引き出し、伸ばすことができるようにする。							
第2学年経営	集団生活の中で主体性・社会性・協調性を持つ、自律的に行動できる生徒を育成する。	円滑な人間関係を形成するため、心のこもった挨拶や場に適した言葉遣いができるよう指導する。							
		部活動や学校内の集団内でのリーダーの経験をさせ、人間関係構築力やコミュニケーション力などを養い、人前で自己表現する機会を設定する。							
		生活のリズムを確立させ健康管理への意識を高めさせるとともに、自分で感情をコントロールする力を身につけさせることで、出席皆勤率70%以上を目指す。							
		学校行事の運営や修学旅行をはじめとする校外学習などを通して、時間や期限、公共の場のルール・マナーを順守することの大切さを伝え実践させる。							
		当たり前にある日常のありがたさに感謝し、校門一礼や学習環境を整えるための清掃活動を積極的に取り組むよう指導する。							
		相応しい服装・頭髪とは何か考えさせ、共通認識のもと全員で日常的に一貫した指導を行っていく。							
	高い志を持った進路目標を掲げ、前向きな態度を取り、進路実現に必要な学力が身についた生徒を育成する。	習熟別クラス編成のメリットを活かし、生徒1人1人が個性や能力を発揮できる個別最適な学びを実現し、上位層と中下位層の双方の学力を伸ばすことができるような指導内容や指導方法の工夫改善を常に取り組む。							
		「総合的な探究の時間」をはじめとするあらゆる授業の探究活動を通して、多様な人々と協働して学ぶ態度が取れる、課題を見いだし解決する力を持った生徒を育成する。							
		学ぶ楽しさ、学ぶ意義を感じることで自ら学ぶ姿勢を形成させ、家庭学習時間の目標を平日150分、休日300分とする。							
		進研模試の国数英総合成績の全国偏差値54以上（国公立大合格の目安）に100名以上を目指す。また、習熟クラスについては、全国偏差値62以上を目標とする。							
		学年通信やHR、学年集会等において、新課程による学習や進路に関する情報を連絡し、生徒や保護者に最新情報を周知する。							
		成績不振者に対して正副担任と教科担当者の連携のもと、その原因を早期に把握し、十分な指導を行う。							
	学校生活を通して自他の良さを気付かせ、生徒の自己肯定感を高める指導を行う。	学校行事やイベントに積極的に参加させ、行動力や的確な状況判断力を養い、今後リーダーシップを取ることができる生徒を育成する。							
		二者面談や日常の対話を通して、生徒理解に努め、保護者との連絡を密にすることで信頼関係の構築を図る。							
		学年集会で先生方からの講話や外部講師を招いた講演会を行い、広い視野を持った生徒を育成する。							
		定期的に学年通信を発行し、様々な生徒の日常生活や活躍を示すことで、日々の自らの行動に自信を持たせる。							

第3学年経営	志を高く持たせ、進路実現に主体的に粘り強く取り組む力と学力の向上を図る。	HR・学年集会・個人面談で大学入試の情報を的確に伝え、自分の将来について考えさせ、進路目標を明確にすることで、高い志を持たせる。						
		国公立大学合格70名以上、公務員コース85%以上の合格を目標とする。 （難関国立大学10名以上、国公立大学学校推薦型・総合型選抜入試10名以上）						
		進研模試の偏差値については総合成績で54以上に70名以上、習熟クラスについては、総合成績で平均偏差値58以上を目標とする。						
		思考力・判断力・表現力等を養成するため、難関大学受験希望者に対して添削・課題などの指導を行ったり、レベル別に応じた課題や復習の提示を行ったりするなど指導内容・指導方法の工夫を図る。						
		習熟度別クラス編成の良さを活かし、上位と下位の双方の学力を伸ばす授業を行う。						
		課外や土曜セミナー等を活用し、生徒のレベルに応じた指導の充実を図る。						
	自律自治の精神を養い、受験生としての生活習慣と成人としてのTPOに応じだ言動を確立させる。	手帳やメモ帳を使い自己管理能力をさらに向上させ、受験生としての生活リズムを確立させ、出席皆勤率70%以上を目標とする。						
		自ら学習する姿勢を育成し、進路実現を意識した計画的な学習の取組を行わせる。早朝学習や居残り学習などを推奨し、平日200分以上、休日400分以上の家庭学習時間を確保させる。						
		5分前行動の習慣を定着させ、物事に余裕を持って取り組ませるとともに、想像力を働かせ、心が通う場に応じた挨拶や適切な言動をとることができるように指導を継続する。						
		学校内外問わず、時間や期限、規則といったルールやマナーを守れない生徒には、社会性獲得のため、「悪いことは悪い」と毅然とした態度で共通認識のものと一貫した指導を行う。また、目標を持ち、その実現のために自分の欲求や衝動を適切にコントロールし、信念をもって粘り強く行動することの必要性を説いていく。						
		個人面談を充実させ、正副担任と教科担当者、保健室や保護者との連携のもと、その原因を早期に把握し、学年全体で情報を共有し、個に応じた適切な指導を行う。						
	全ての事に感謝する心を持ち、社会にとって有為な人材となる他喜力溢れる生徒を育成する。	八女高の最高学年であることを自覚させ、学校行事・部活動・委員会活動・係業務に責任を持って主体的に取り組ませ、充実感・達成感を持たせるとともに、協調性や協働性を育み、人間関係構築力やコミュニケーション力、リーダーシップの向上を図る。						
		二者面談、学年集会やHR、各クラスでのSHRなどを通し、自分に関わる全ての人や環境に感謝し、他人を思いやる易しい心の必要性を説く。						
		清掃活動を通して、学習環境を整備し落ち着いた学校生活を送らせるとともに、奉仕の心や学び舎に対しての感謝の気持ちを育む。						
		外部講師や多くの先生方からの講話を通して、相手の意図を理解しようとする「傾聴力」「想像力」を養い、多種多様な価値観や人間性を認めていく優しさや心のしなやかさを養う場面を設定する。						
事務	電話応対・来客接遇の向上を図る。	電話対応や来客対応において、相手の立場に立った丁寧な対応を心掛け、接遇の向上に努める。						
	施設・設備の適切な維持管理を行う。	定期的に校内巡視を行い修繕等必要な個所等を把握するとともに、必要に応じて予算要求を行い適切な施設の維持管理に努める。						
	効果的な予算執行を行う。	職員に対して節電、用紙の節約等を呼び掛けることで経費の節減を図り、教育活動充実のための効果的な予算執行に努める。						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・
・

評価項目以外のものに関する意見